資料２

岩見沢市新病院の整備について

南空知保健医療福祉圏域連携推進会議
地域医療構想専門部会（地域医療構想調整会議）

令和５年３月２８日
岩見沢市立総合病院

1　これまでの取組み

日程	内容
R2年2月10日	**南空知保健医療福祉圏域連携推進会議及び地域医療構想専門部会合同会議** 北海道より、「岩見沢市立総合病院と北海道中央労災病院では、人口減少下における急性期機能の維持・強化を図るため、機能集約化など再編統合に向けた議論を進めていただきたい」との論点提起
R2年3月27日	**急性期医療機能維持に向けた協議に係る合意の場** ※両病院の設置者間で再編統合を視野に入れた協議を進めることについて合意
R2年3月27日	**南空知保健医療福祉圏域連携推進会議及び地域医療構想専門部会合同会議（書面開催）** 地域医療構想の実現に向けた重点支援区域の申請について協議
R2年4月16日	**「新岩見沢市立総合病院建設基本構想」策定**
R2年5月29日	「岩見沢市立総合病院と北海道中央労災病院の今後のあり方検討委員会」を設置 （R2.6.10～R3.6.2の間に10回の会議を開催）
R2年8月25日	**地域医療構想の実現に向けた重点支援区域に選定** ※南空知区域（岩見沢市立総合病院、北海道中央労災病院）
R3年6月2日	「岩見沢市立総合病院と北海道中央労災病院の今後のあり方検討委員会」報告書取りまとめ
R3年7月15日	**急性期医療機能維持に向けた協議に係る合意の場（北海道主催）（Web及び対面）**
R3年7月20日	**岩見沢市立総合病院と北海道中央労災病院の統合に係る基本合意書締結**
R3年8月４日	**「岩見沢市立総合病院と北海道中央労災病院の統合を前提とした新病院整備基本方針」策定**
R4年3月11日	**南空知保健医療福祉圏域連携推進会議及び地域医療構想専門部会合同会議（書面開催）** 岩見沢市新病院の骨格（案）について協議
R4年3月	岩見沢市新病院の骨格（案）に対するパブリックコメント、市民説明会、関係団体との意見交換会
R4年4月	**岩見沢市新病院の建設地を北海道中央労災病院用地とすることに決定**
R4年8～9月	岩見沢市新病院建設基本計画（素案）に対するパブリックコメント
R4年9月2日	**南空知保健医療福祉圏域連携推進会議　地域医療構想専門部会（書面開催）** 岩見沢市新病院建設基本計画（素案）について協議
R4年9月28日	**岩見沢市新病院建設基本計画策定**
R5年3月6日	病院事業債（新設・建替等に係る手続き）総務省通知

2　基本計画における新病院の概要

基本計画策定の考え方

新病院に向けた基本的な考え方・目指す姿

基本コンセプト

質の高い急性期医療の提供を維持・強化するとともに、
南空知医療圏域住民の生活的価値（QOL）の向上を実現する病院

- **患者にとってわかりやすく信頼される病院**
- **急性期医療や救急医療を中心とする総合的な診療体制を担う病院**
- **安全・安心で快適な療養環境を提供する病院**
- **スタッフが誇りと働きがいを持てる魅力ある病院**
- **健全で効率的な経営による持続可能な病院**

新病院の重点医療機能（病院像）

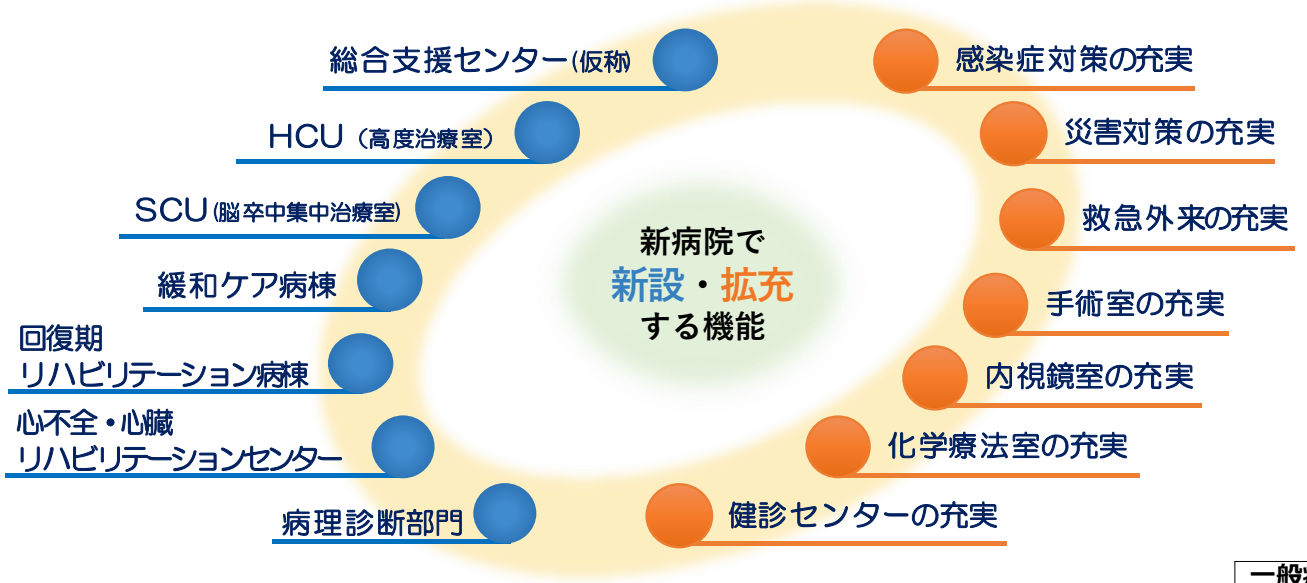
急性期医療の充実	急性期医療提供体制の充実、がん診療連携拠点病院の指定
回復期医療の充実	回復期病棟の設置、心不全・心臓リハビリテーションセンターの設置
専門医療の充実	小児・周産期医療提供体制の充実、精神医療や透析など専門医療の維持
救急医療の充実	HCU(高度治療室)・SCU(脳卒中集中治療室)の設置、二次救急の機能の充実
災害・感染症医療の充実	災害医療提供体制の充実、新興感染症等に対する体制の強化
地域医療連携の推進	地域の医療・介護・福祉機関との連携・機能分化による地域医療の維持

2　基本計画における新病院の概要

基本計画策定の考え方

新病院の診療機能

- 臓器別・疾病別などでわかりやすく細分化した**28診療科**に再編
- 急性期や二次救急を担う医療機関としての機能を強化するため、**7つの部門を新設**し、**7つの機能の充実**を図ります。



標榜診療科 28科	
総合診療科	整形外科
内科	産婦人科
呼吸器内科	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
循環器内科	眼科
消化器内科	泌尿器科
糖尿病内科	精神神経科
腎臓内科	麻酔科
緩和ケア内科	脳神経外科
小児科	皮膚科
外科	放射線診断科
呼吸器外科	放射線治療科
血管外科	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科
人工透析・腎不全外科	病理診断科
乳腺外科	歯科口腔外科

新病院の施設規模

- **新病院の病床数**は、入院患者数がピークとなる新病院開院当初（令和10年度）を想定した合計**462床**
- **計画延床面積**は、近年建設された同規模病院の事例を参考に、病院部分の1床あたり延床面積を85㎡と設定した**40,000㎡程度**

一般病床	**388床**
（内訳）	
・急性期一般病棟	310床
・ＨＣＵ（高度治療室）	12床
・ＳＣＵ（脳卒中集中治療室）	6床
・緩和ケア病棟	20床
・回復期リハビリテーション病棟	40床
精神病床	**70床**
感染症病床	**4床**
合計	**462床**

2　基本計画における新病院の概要

施設整備計画

施設整備方針

患者や家族など全ての利用者にやさしい施設

ユニバーサルデザイン、効率的な動線、プライバシーやセキュリティへの配慮、利便施設の充実

災害や感染症に強い安全・安心な施設

大規模災害や感染症のパンデミック発生時にも医療機能を継続できる建物配置・構造・設備

職員が能力を発揮できる働きやすい施設

ICT/IoT・AI・RPAの導入、教育・研修機能、院内保育、アメニティ機能の充実

将来の変化に対応し地域医療を守る施設

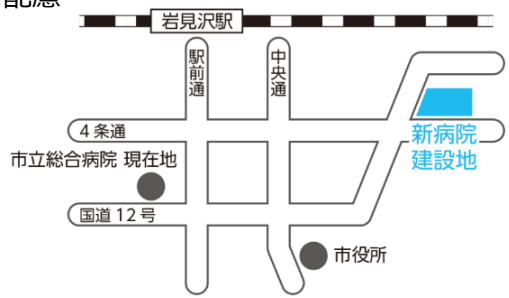
柔軟性や拡張性に配慮した建物構造、全面建替スペースを確保できる配置

経済性と環境に配慮した施設

施設整備費やライフサイクルコストの縮減、自然エネルギーの活用、省エネルギー化

建設地

- 災害発生時や救急搬送におけるアクセスの確保において、国道に面した立地の優位性が高いことから、**「北海道中央労災病院用地」に決定**
- 新病院建設工事期間中の中央労災病院の運営の継続、敷地内の高低差、工事中の安全計画などに配慮
- 交通アクセスの更なる向上に向けて関係機関と協議・検討



駐車場計画

- 患者・来院者用や職員用など、**1,000台程度**の駐車場を整備

構造計画

- 災害発生時にも患者や職員の安全性を確保し、診療機能が維持できるよう、**免震構造**とする

2　基本計画における新病院の概要

事業収支計画

概算事業費と財源内訳

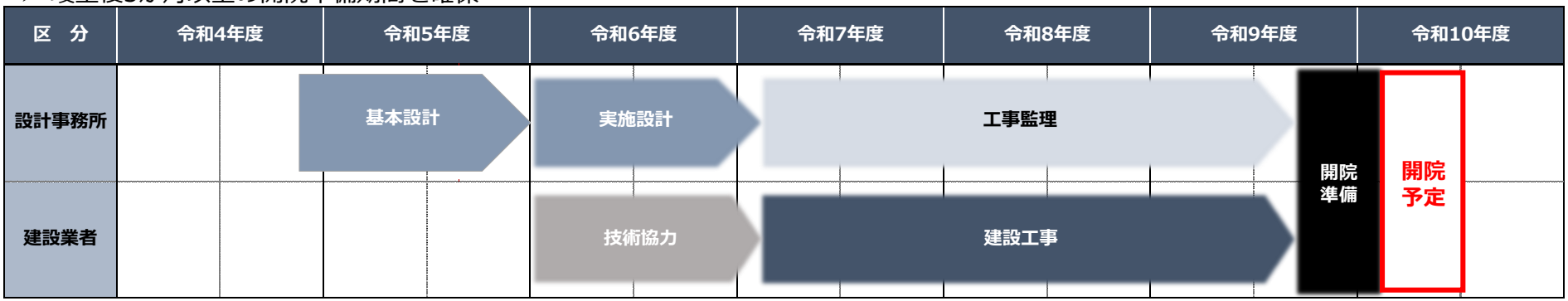
- **新病院建設事業の概算事業費は、総額344億円**
- 安定した病院経営を維持するため、可能な限り事業費を縮減
- 財源は企業債のほか、国や北海道の補助金を最大限活用

(1)設計・監理費	14.6 億円
(2)建築工事費	242.8 億円
(3)外構工事費	5.2 億円
(4)解体経費	11.9 億円
(5)医療機器	45.0 億円
(6)什器備品	5.0 億円
(7)情報システム	14.2 億円
(8)事務費など	3.3 億円
(9)移転費など	2.0 億円
全体事業費	344.0 億円

事業収支シミュレーション

- 開院2年目までは移転費用や減価償却費などの影響により赤字
- **開院後3年目以降は黒字化し、経営が安定する見込み**
- 医療需要の変化に応じて規模を見直すなど、持続可能な経営を維持

3　今後のスケジュール

整備スケジュール

- 令和4年度から基本設計に着手
- 施工者を早期に確保するため、実施設計段階から施工者が技術協力で参画するECI方式を前提に、**令和10年春の開院**を目指す
- 竣工後3か月以上の開院準備期間を確保